

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 12月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2276600381
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 竜洋の家
所在地 (電話番号)	磐田市掛塚1778-1 (0538-59-2120)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年10月11日

## 【情報提供票より】(平成20年9月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤	11人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.6 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円 実費

### (4) 利用者の概要(平成20年9月25日現在)

利用者人数	23 名	男性	5 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.8 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みのりハートクリニック、高木歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは磐田市南部の天竜川河口近くにありその先には遠州灘が一望できる。近くには一部住宅もみられるが、周辺は田園が広がり落ち着いて静かに暮らせる環境がある。「よりよい信頼関係を地域とともに築き、やさしい笑顔で接しよう。」を理念として掲げ、ホーム長を中心として職員全員が日々笑顔を決やらず利用者本位のケアに取り組んでいる。朝は映画・テレビでお馴染みの「水戸黄門」の歌のリズムに合わせた体操から始まり、支援する側・支援される側といった垣根が取り省かれた生活場面も随所に見受けられ、利用者と職員が一緒になってゆったり過ごす場面を大切にしているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価での改善項目では改善の跡が伺われるが、運営推進会議の開催、家族等の意見の収集などにおいて、更に一工夫した取り組みが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長・職員共に評価の意義は理解しており、評価を活かした取り組みも一步一步確実に進められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	人員のやりくり等の関係から本年は2月と8月の開催にとどまっているが、運営推進会議の重要性を再認識し、定期的に開催できない要因について一工夫するなどして運営推進会議の活性化とサービスの質の向上に資することが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時に苦情や相談に応じる窓口があることを伝えており、運営推進会議あるいは家族等の来訪時には意見などを聞くようにしている。家族等から少しでも多くの意見・要望が拾えるようなシステムの検討を期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者一人ひとりが地域と繋がりがながら暮らし続けられるよう自治会に加入し、自治会長の協力の下、地域の祭りや行事等に積極的に参加し近隣住民との交流も広がってきている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を職員全員で話し合いの下に作り上げられており、その理念には地域との密接な関わり合いの中で、利用者が安心して生活ができるような支援体制を柱としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員での話し合いの結果で作られたことからホーム長・職員の言葉掛け、態度、記録等からも理念の実践に向けた取り組みが見られる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者一人ひとりが地域と繋がりながら暮らし続けられるよう、自治会に加入し自治会長の協力の下、地域の祭りや行事等に積極的に参加し近隣住民との交流も広がってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長・職員共に評価の意義は理解しており、評価を活かした取り組みも一步一步確実に進められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	人員のやりくり等の関係から、本年は2月と8月の開催に留まっている。	○	定期的な開催できない要因等については一工夫する中で、定期的な開催できるよう努力されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の業者連絡会への参加、地域包括センターが行っている地域ネットワーク会議への参加、或いは必要に応じて市の担当窓口に出掛けるなどして連携を深めている。また、介護相談員による来訪もありこれらの情報を運営に反映できるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に請求書等を送付する際、日々の暮らしぶりや健康状態などを報告しているほか、状態の変化があったときは即刻電話で報告している。また、家族等の訪問時においても日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情や相談に応じる窓口があることを伝えており、運営推進会議あるいは家族等の来訪時には意見などを聞くようにはしている。	○	家族からの意見・要望等を求める機会を少しでも多くするため、例えば毎月請求書等を送られた際に意見を求めたり、一覧製の面会簿をプライバシー保護の面からも一葉としてご意見欄を設けるなどのシステムを検討することにより更に家族との関係を緊密にされることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営上職員の異動があった場合には利用者の不安を解消するためよく説明し理解を得られるようにしているほか、ユニット間の異動は原則1名としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においては、職員の段階に合わせた研修システムにより実施されている。また、外部研修については、仕事の状況のみを進めたいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者(磐田市・袋井市)とは2ヶ月に1度の割りで開催されている事業者会議に参加して、他の同業者との情報を交換し質の向上に役立たせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して落ち着いた生活ができるよう心のケアを第一にした声掛けや、馴染みの物を持ち込み環境の整備を家族と共に行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム長・職員共、介護する側・される側といった垣根を取り外し、お互いに生活をエンジョイし、喜怒哀楽を共に分かち合う関係づくりを実践するため、共通認識を持って日々のケアに取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者はもちろん家族の意向を聞き、常にその掌握に努め、利用者本位のサービスを心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者はもちろん、家族や関係者の意見や要望を反映させる為、職員全員でミーティング等で話し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っているほか、日々の生活の中での食事時間、入浴方法など利用者の状態変化を見ながら本人や家族及び関係者と話し合い、実情に即した介護計画の見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の状況の変化や要望に応じて、ホーム長を中心に外出支援等の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を優先にした受診支援をしており、協力医療機関の間にも連携システムが構築され、定期的な受診の他、昼夜対応出来る様医療システムができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた取り組みは、職員全員が理解しており、本人と家族の安心と納得を得られるように、意思確認書を交し同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員で個人情報保護法の理解に努め法令順守の徹底に取り組んでいる。面会名簿の一部改善点はあるが関係書類は管理されており、プライバシーを損ねる様な言葉掛けをしないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が利用者のペースの尊重を大事にしており、一人ひとりが本来持っているペースや希望に合わせた暮らしの確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	散歩の途中、近隣の農家から頂いた旬な食材や野菜などを取り入れ楽しんで食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は広く清潔感があり、職員は利用者の意向をまず第一と考え出来るだけ希望に合わせて入浴できるように時間の差し繰りなど工夫し支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の習慣や張り合いのある時間を過ごせるように、様々な趣味や生活歴を活かした取り組みをしている。(地域でのカラオケ大会への参加、お祭りの見物等。)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごすことのないよう、利用者からその日その時の希望を取り、周りの田園の中での散歩等を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵を掛けない暮らしの大切さを認識しており、常に見守りや声掛けを実施している。また、地域住民の理解も有るため声掛けや連絡をしてもらえる関係を築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら防災訓練を行っているが、災害時の具体的な誘導、避難場所が定かでない。	○	災害時における避難場所をすみやかに確認し、職員、利用者、その家族等に周知するとともに防災マニュアルの整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は全体の栄養バランスを把握した上で、一人ひとりの食事量や水分補給量が確保されているかを記録表でチェックしており、利用者一人ひとりの状態の力や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は太陽の光を十分に取り入れており、明るく広々している。大きなソファはゆっくりくつろげる配慮がされており、居心地良く安心感が生まれるような空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い馴染んだ写真や家具が居室に置かれており、利用者が安心して暮らせるよう配慮している。		